

| | |
|---------|----------------------------------|
| 氏名 | 井 上 千 代 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 2253号 |
| 学位授与の日付 | 平成13年3月31日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科内科系小児科学専攻 (学位規則第5条第1項該当) |
| 学位論文題目 | 胎児異常132例における羊水細胞の染色体診断 |
| 論文審査委員 | 教授 工藤 尚文 教授 清水 憲二 教授 阿部 康二 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

岡山大学小児科教室で行った出生前羊水染色体診断 1,139 例のうち、超音波検査にて検出された胎児異常を主訴とした 132 例において染色体異常の種類、頻度を検討した。胎児異常の種類は胎児水腫 43 例、羊水過多 30 例、頸部リンパ管腫 21 例、子宮内胎児発育不全 21 例などであり、52 例 (39.4%) が 2 種類以上の異常を重複していた。132 例中 28 例 (21.2%) に染色体異常を認め、そのうち 25 例が異数性の染色体異常 (18 トリソミー 10 例、21 トリソミー 9 例、Xモノソミー 4 例、13 トリソミー 1 例、4 倍体 1 例)、3 例は構造異常であった。構造異常の症例は、その後の検討で、2 例は両親の染色体核型が正常な de novo 例、1 例は母親の均衡型転座由来例であった。染色体異常症例を胎児異常の種類別に検討してみると、子宮内胎児発育不全、頸部リンパ管腫、羊水過多、胎児水腫における頻度はそれぞれ 42.9%、28.6%、26.7%、25.6% と高かった。重複例における染色体異常の頻度は単一異常例に対し有意に高かった。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

超音波検査にて検出された胎児異常を主訴とした132例において染色体異常の種類、頻度を検討した。胎児異常の種類は胎児水腫43例、羊水過多30例、頸部リンパ管腫21例、子宮内胎児発育不全21例などであり、52例 (39.4%) が2種類以上の異常を重複していた。132例中28例 (21.2%) に染色体異常を認め、そのうち25例が異数性の染色体異常 (18トリソミー10例、21トリソミー9例、Xモノソミー4例、13トリソミー1例、4倍体1例)、3例は構造異常であった。染色体異常症例を胎児異常の種類別に検討してみると、子宮内胎児発育不全、頸部リンパ管腫、羊水過多、胎児水腫における頻度はそれぞれ 42.9%、28.6%、26.7%、25.6% と高く、さらに胎児異常重複例における染色体異常は単一異常例に比し、高頻度であることを報告した。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。